

ノートテイク講習会

目的

本年度4月から、新たに聴覚障がい学生が入学し、現在、新入生4名を含め、ノートテイクを必要としている聴覚障がい学生は、把握している限りで6名います。彼らにとってノートテイクという支援は、授業を受けるうえで、非常に重要な支援です。そこで、今後、よりよいノートテイクが出来るよう、現在支援を行っている学生を対象に外部講師の方からご指導頂き、学生のノートテイクの技術力、意識の向上を図ることを目的としています。

※ノートテイクとは、授業中の音声情報を視覚化することにより、聴覚障がい学生に授業情報を保障する支援のことです。

講師

伊勢原要約筆記サークル「やまびこ」

主催者

障がい学生支援プロジェクト

日時

2007年6月7日(木)17時～19時20分

場所

湘南校舎 8号館 3階プロジェクト会議室

対象

ノートテイカー(一般学生)、プロジェクトメンバー、やまびこ(伊勢原市内・要約筆記サークル)他

聴覚障がい学生5名(プロジェクトメンバー)

参加者内訳

プロジェクトメンバー	一般学生	やまびこ	その他	計
19(名)	29(名)	6(名)	4(名)	58(名)

事前準備

- ・ 事前にどのような会を開くべきか考えるために支援者、利用者双方に出来る範囲でアンケートをとり、ニーズを調査した。

その結果参加者の経験・意識は、超初心者レベル。現在の支援体制

は、学部によって全くバラバラ、人数不足という問題点がはっきりした。

- 講師は、伊勢原でノートテイクに入っていたから「やまびこ」をお願いした。

メール・電話での簡単なやりとりと直接一度事前に、粕谷(プロジェクト代表)が「やまびこ」の方にお会いした。

企画そのものをきちんと練り上げる時間が足りなかったし、情報保障者の確保も微妙だった。学生同士や、「やまびこ」との連携が取れていなかったために、どこまでを準備するべきかがわからなかった。もっと話し合う時間と人が必要だったと考える。

- 本部会で進めていった。

事前に時間をかけて話し合っていたようではあるが、講習会はどのようなものか自分たちがイメージできなかったことと参加者の人数が読みきれなかった結果、今回の反省点が出てきたように思う。

また、ノートテイク講習会のためだけの集まりはなく、粕谷(代表)一人の独断で動いた部分もあった。

- メンバーが協力して、各学部をお願いして回ったので、多くの参加者を集めることができたが、当日集まる人数を把握できていなかった。

全員を集めたために、技術レベルはあまり大差なかったが、文系・理系など集まった人がバラバラ→様々な幅広いニーズ→一度の講習会ではやはり無理。

- プロジェクトメンバーからお手伝いを選出したが、審査会を通じてすぐで、ノートテイクのことを全くわからない状態の者が多く、プロジェクトメンバーの積極的なお手伝いは少なかったように思う。

内容(流れ)

講習会の前半では、要約筆記サークル「やまびこ」の方より、聴覚障害に関する具体的な知識や、ノートテイクの必要性についてなどの基本から説明して頂きました。そして、ノートテイクと利用者の実状、そして求めている理想と共に、ノートテイクを実践する上での留意点(マナー)や、より良質な筆記に導くためのテクニックの指導を頂きました。また、実際にノートテイクの感覚を知るために体験の場を設けました。



後半には出席者全員を含めた話し合いの機会に「座談会」を開き、ノートテイクとして活動する方からそれを利用する方、また関心を持った未経験の方まで様々な意見の交換を行いました。

そして講習会の最後に、アンケートに答えて頂きました。

参加者アンケートの傾向

前半の講習会に関しては、ノートテイクに必要である基本的なポイントを掴むことが出来たという意見や、ノートテイクの存在意義やマナー等の再認識に役立ったとの意見が多数ありました。しかしながら、「時期が遅すぎた」「もっと実践的な事が知りたかった」など、参加者のニーズと噛み合わなかった部分も、多かったように思います。

後半の座談会では、実際にノートテイクに取り組んでいる学生が、互いに悩みを共有し、解決策を談義する場を設けたことに対して好意的な意見が目立ちました。しかし、時間の不足に対する改善や、座談会の形式の工夫を訴える意見も少なくありませんでした。

全体的な要望としては、「開講時期・時間配分の改善」が最も多く見られました。この意見に関しては、事前に準備をもっと綿密に練ることが必要であったと思います。

粕谷(代表:企画責任者)の感じたこと

とにかく、この異例の速さ(6月7日)に企画が開けたことは評価すべきことだと思う。(チャレンジセンターは5月12日に審査会を実施)しかし、今後きちんと、テイクのニーズに応えられるような時期(学期始め)に講習会等を開催していきたい。目的・対象をきちんと明確にし、事前に多くのメンバーが時間を費やし話し合い、もし、外部に講師を頼むのであれば、内容を明確にし、要求していくことが大切だ。

一人の聴覚障がい学生に対して、本当に多くの支援者が必要であるということ

を改めて感じさせられる講習会となった。

プロジェクトメンバー(報告書担当)の感じたこと

今回、ノートテイクに関してほぼ無知の状態、未経験者の立場から講習を聞かせて頂きました。「やまびこ」さんからのノートテイクの存在意義や基本マナーの教示は、初心者の方だけでなく、上級者の方も再認識するよい機会になったのではないかと思います。

ノートテイク体験では、素早く的確である筆記の難しさとともに、実際に講義を受けるノートテイクと利用者の苦労を僅かながら実感することができました。

また、座談会を設けたことでノートテイクと利用者が実際に直面している問題や、感じている疑問を当人同士が解決する手段をとれたことも、非常に良い点であったと感じています。(ただ、座談会については多人数の中での話し合いでしたので、できるだけ多くの意見を取り上げるためにも、もう少し時間が取れると良かったと思います。)

講習会では終始、ノートテイクに対する参加者の熱心な姿勢や取組が伝わってきていて、今後の活動のさらなる向上を期待させる、とても意義のある講習であったと思います。